

令和 8 年度磐南浄化センター
汚泥収集運搬処分業務（1 t 当り）単価契約（その 1）仕様書

（目的）

第 1 条 この仕様書は磐南浄化センターから排出する下水汚泥（以下「汚泥」という。）を収集運搬し、資源化等有効利用による適正処理を図ることを目的とする。

（汚泥の性状等）

第 2 条 汚泥の性状等は以下の表及び別添「廃棄物データシート」のとおりとする。

項 目	内 容
種 類	汚 泥
形 状	固 形
荷 姿	バ ラ
搬 出 予 定 量	年間 約 500 t

発注者は必要に応じ、汚泥に関する情報を受注者に提供する。

（業務の履行にかかる留意事項）

第 3 条 搬出、運搬等に当っては次の事項を留意しなければならない。

- （1） 搬出にかかる車両は、監督職員または磐南浄化センターの維持管理を受託している担当職員と協議のうえ計画的に配置する。

【参考】汚泥処理棟ケーキホッパー室出入口寸法 高さ 4000 mm×幅 3750 mm
ケーキホッパー下部高さ 3480 mm

- （2） 車両への積込み及び数量の確認は、監督職員または磐南浄化センターの維持管理を受託している担当職員と協議のうえ計画的に配置する。
- （3） 運搬には、汚泥や臭気が外部に漏れないよう適切な措置をする。
- （4） 運搬途上においては、積替え及び他の廃棄物との混載をしてはならない。
- （5） 業務履行には、法令（道路運送車両法・道路交通法・労働安全衛生法等）及び磐田市と地元が締結している協定書・覚書等を遵守する。
- （6） 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、日本下水道事業団の契約書及びその他関係法令の規定を遵守する。

（搬出時期）

第 4 条 搬出時期は以下とする。

- （1） 搬出は、汚泥焼却炉の緊急点検・修繕工事（9 月初旬～11 月下旬）約 30 日を予定する。点検・修繕期間中は焼却炉再開まで毎日（土日、祝日を含む）搬出を行う。
1 日当たりの搬出回数は、基本 2 回とし搬出時間は、5：00 及び 13：00 とする。
1 回当たりの搬出重量は約 9 t である。
詳細については、別途業務との調整による。
- （2） 突発的な故障等で焼却炉が休止状態になった場合に発生する。
突発的な搬出は、状況にもよるが、土、日、祝日、祭日、正月を含む毎日の場合がある。1 日当たりの搬出回数は 1～3 回、1 回当たりの搬出重量は約 9 t とする。

(処分方法)

第5条 汚泥は資源化等により有効利用を行うものとする。

(業務責任者)

第6条 受注者は業務上の責任者を選定し、速やかに発注者に届け出なければならない。

(報告)

第7条 受注者は搬出月の処理実績量を所定の様式により、翌月の5日までに発注者に報告する。

(数量の確認)

第8条 数量の確認は、発注者が承認する計量法に基づく計量施設により受託者が計量するものとし、その記録(数量及び写真)を添付する。

(関係書類の提出)

第9条 受注者は産業廃棄物処理契約締結後、速やかに必要な書類を発注者に提出する。

- (1) 運搬車両の車両番号、積載量
- (2) 産業廃棄物収集運搬許可書の写し
- (3) 運搬経路、運搬距離
- (4) 産業廃棄物処分許可書の写し
- (5) 職務分担表

(本業務委託料の支払い)

第10条 本業務委託の委託料の支払方法については、日本下水道事業団規定による。

< 表 面 >

管理番号

廃棄物データシート(WDS)

※1 本データシートは廃棄物の成分等を明示するものであり、排出事業者の責任において作成して下さい。

※2 記入については、「廃棄物データシートの記載方法」を参照ください。

作成日 令和 7年 12月 16日

記入者 照井 康太

1	排出事業者	名称 所在地	日本下水道事業団 〒461-0025 名古屋市東区徳川1-15-30	所属 担当者	東海総合事務所磐田分室	TEL FAX	0538-66-7412 0538-66-7411
2	廃棄物の名称	磐田市磐南浄化センター 下水汚泥					
3	廃棄物の組成・成分情報 (比率が高いと思われる順に記載) ☐ 分析表添付(組成)	主成分 他 有機性汚泥				MSDSがある場合、CAS No.	
4	廃棄物の種類 ■産業廃棄物 ☐ 特別管理産業廃棄物	■汚泥 ☐ 廃油 ☐ 廃酸 ☐ 廃アルカリ ☐ その他(ばいじん) ※ 廃棄物が以下のいずれかに該当する場合 ☐ 石棉含有産業廃棄物 ☐ 水銀使用製品産業廃棄物 ☐ 水銀含有ばいじん等 ☐ 引火性廃油 ☐ 強アルカリ(有害) ☐ 指定下水汚泥 ☐ 廃酸(有害) ☐ 引火性廃油(有害) ☐ 感染性廃棄物 ☐ 銹さい(有害) ☐ 廃アルカリ(有害) ☐ 強酸 ☐ PCB等 ☐ 燃えがら(有害) ☐ ばいじん(有害) ☐ 強酸(有害) ☐ 廃水銀等 ☐ 廃油(有害) ☐ 13号廃棄物(有害) ☐ 強アルカリ ☐ 廃石棉等 ☐ 汚泥(有害)					
5	特定有害廃棄物 ()には混入有りは○、無しは×、混入の可能性があれば△ ■ 分析表添付(廃棄物処理法)	アルキル水銀 (×) トリクロロエチレン (×) 1,3-ジクロロプロペン (×) 水銀又はその化合物 (×) テトラクロロエチレン (×) チウラム (×) カドミウム又はその化合物 (×) ジクロロメタン (×) シマジン (×) 鉛又はその化合物 (×) 四塩化炭素 (×) チオベンカルブ (×) 有機燐化合物 (×) 1,2-ジクロロエタン (×) ベンゼン (×) 六価クロム化合物 (×) 1,1-ジクロロエチレン (×) セレン (△) 砒素又はその化合物 (△) シス-1,2-ジクロロエチレン (×) ダイオキシン類 (×) シアン化合物 (×) 1,1,1-トリクロロエタン (×) 1,4-ジオキサン (×) PCB (×) 1,1,2-トリクロロエタン (×)					
6	PRTR対象物質	届出事業所(該当・非該当)、委託する廃棄物の該当・非該当(該当・非該当) ※ 委託する廃棄物に第1種指定化学物質を含む場合、その物質名を書いて下さい。					
7	水道水源における消毒副生成物前駆物質	生成物質:ホルムアルデヒド(塩素処理により生成) ☐ ヘキサメチレンテトラミン(HMT) ☐ 1,1-ジメチルヒドラジン(DMH) ☐ N,N-ジメチルアニリン(DMAN) ☐ トリメチルアミン(TMA) ☐ テトラメチルエチレンジアミン(TMED) ☐ N,N-ジメチルエチルアミン(DM) ☐ ジメチルアミノエタノール(DMA) 生成物質:クロロホルム(塩素処理により生成) ☐ アセトンジカルボン酸 ☐ 1,3-ジハイドロキシベンゼン(レゾルシノール) ☐ 1,3,5-トリヒドロキシベンゼン ☐ アセチルアセトン ☐ 2'-アミノアセトフェノン ☐ 3'-アミノアセトフェノン 生成物質:臭素酸(オゾン処理により生成)、ジブロモクロロメタン、ブロモジクロロメタン、ブロモホルム(塩素処理により生成) ☐ 臭化物(臭化カリウム等)					
8	その他含有物質 ()には混入有りは○、無しは×、混入の可能性があれば△ ☐ 分析表添付(組成)	硫黄 (×) 塩素 (×) 臭素 (×) ヨウ素 (×) フッ素 (×) 炭酸 (×) 硝酸 (×) 亜鉛 (○) ニッケル (○) 銅 (○) アルミ (○) アンモニア (○) ホウ素 (×) その他 (鉄、リン、カリウム)					

9	有害特性 (有・無・不明)	☐ 爆発性 ☐ 引火性(°C) ☐ 可燃性 ☐ 自然発火性(°C) ☐ 禁水性 ☐ 酸化性 ☐ 有機過酸化物 ☐ 急性毒性 ☐ 感染性 ☐ 腐食性 ☐ 毒性ガス発生 ☐ 慢性毒性 ☐ 生態毒性 ☐ 重合反応性 ☐ その他()
10	廃棄物の物理的 性状・化学的性状	形状() 臭い() 色() 比重() pH() 沸点() 融点() 発熱量() 粘度() 水分()
11	品質安定性	経時変化(有・無) 有る場合は具体的に記入
12	関連法規	危険物(消防法)・特化則(特定化学物質障害予防規則)・有機溶剤・毒劇物・悪臭
13	荷姿	☐ 容器() ☒ 車両() ☐ その他()
14	排出頻度 数量	頻度(スポット・継続予定) () kg・t・ℓ・m ³ ・本・缶・袋・個 / 年・月・週・日
15	特別注意事項 (有・無)	※取り扱う際に必要と考えられる注意事項を記載 ・避けるべき処理方法、安全のため採用すべき処理方法 ・他の廃棄物との混合禁止 ・粉じん爆発の可能性 ・容器腐食性の可能性／注意点 ・廃棄物の性状変化などに起因する環境汚染の可能性 ・環境中に放出された後の支障発生の可能性(消毒用塩素等との反応により 他の物質を生成し、水道取水障害に至る可能性等) 等

【参考】その他の情報

- ・ サンプル等提供 (均一サンプル有 ・ 不均一サンプル有 ・ サンプルの一部分有 ・ サンプル無 ・ 写真有)
- ・ 産業廃棄物の発生工程等
 「3廃棄物の組成・成分情報」を推定する根拠となる、使用原材料・有害物質・不純物の混入、排出場所
 がわかる発生工程の説明を書いてください。 工程前からの持ち込み成分があれば書いてください。
 工程図への記入でも可。
 (処理業者においては、不純物混入の可能性や廃棄物成分のブレ幅の推定、分析頻度等の
 判断材料となります。)

<排出事業者及び処理業者内容確認欄>

No.	内容確認日時	排出事業者担当者	処理業者担当者	備考

<変更履歴>

No.	変更日時	排出事業者担当者	処理業者担当者	変更内容

試験成績書

株式会社ウォーターエージェンシー 様

計量証明事業所 静岡県知事登録 第 148-6 号
株式会社 静環検査センター
静岡県藤枝市高柳2310番地
TEL 054-634-1000 FAX 054-634-1010
環境計量士（濃度関係）
（登録 第11039 号） 辻村 充貴

受付年月日	令和7年8月7日	受付方法	収集
採取年月日	令和7年8月6日	採取時刻	15時45分
採取者	株式会社ウォーターエージェンシー		
試料名	脱水汚泥		
採取場所	磐南浄化センター		
特記事項	昭和48年環境庁告示第13号による溶出試験		

（採取以外の試料については、依頼者のお申し出により記載致しました。）

ご依頼を受けました上記試料について試験した結果を下記の通り報告致します。

（採取以外の受付試料については、搬入された時点から当方の管理下となります。）

試験項目	単位	試験結果	試験方法
含水率	%	76.9	昭48環境庁告示第13号3備考3
溶出pH	—	5.4(25℃)	JIS K 0102-1 12
アルキル水銀化合物	mg/L	0.0005 未満	昭46環境庁告示第59号付表3
水銀又はその化合物	mg/L	0.0005 未満	昭46環境庁告示第59号付表2
カドミウム又はその化合物	mg/L	0.002 未満	JIS K 0102 55.4
鉛又はその化合物	mg/L	0.01 未満	JIS K 0102 54.4
有機燐化合物	mg/L	0.1 未満	JIS K 0102-4 7.2.1及び7.2.3
六価クロム化合物	mg/L	0.05 未満	昭48環境庁告示第13号別表第1
砒素又はその化合物	mg/L	0.02	JIS K 0102 61.4
シアン化合物	mg/L	0.1 未満	JIS K 0102 38.1.2及び38.5
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	mg/L	0.0005 未満	昭46環境庁告示第59号付表4
トリクロロエレン	mg/L	0.002 未満	JIS K 0125 5.2
テトラクロロエレン	mg/L	0.0005 未満	JIS K 0125 5.2
ジクロロメタン	mg/L	0.02 未満	JIS K 0125 5.2
四塩化炭素	mg/L	0.002 未満	JIS K 0125 5.2
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.004 未満	JIS K 0125 5.2

備考：

※試験結果欄に未満と表示されている数値は定量下限値を示します。
当社の許可なく、本試験成績書の一部を複製し使用することを禁止します。

様

試料名	脱水汚泥
採取場所	磐南浄化センター

[illegible]

当社の許可なく、本試験成績書の一部を複製し使用することを禁止します。

分析結果報告書

株式会社ウォーターエージェンシー 様

計量証明事業所 静岡県知事登録 第 148-6 号

株式会社 静環検査センター
〒426-0041 静岡県藤枝市高柳2310番地
TEL 054-634-1000 FAX 054-634-1010

受付年月日	令和7年8月7日	受付方法	収集	天 候	前日: 晴	当日: 晴
採取年月日	令和7年8月6日	採取時刻	15時45分	気温/水温	—	/ —
採取者	株式会社ウォーターエージェンシー					
試料名	脱水汚泥					
採取場所	磐南浄化センター					
特記事項	含有試験					

(採取以外の試料については、依頼者のお申し出により記載致しました。)

ご依頼を受けました上記試料について分析した結果を下記の通り報告致します。

(採取以外の受付試料については、搬入された時点から当方の管理下となります。)

分析項目	単位	分析結果	分析方法
アルキル水銀化合物	mg/kg	0.04 未満	底質調査方法(平成24年8月)Ⅱ5.14.2.1
総水銀	mg/kg	0.27	底質調査方法(平成24年8月)Ⅱ5.14.1.1
カドミウム	mg/kg	0.4 未満	底質調査方法(平成24年8月)Ⅱ5.1.1
鉛	mg/kg	2.9	底質調査方法(平成24年8月)Ⅱ5.2.1
有機燐化合物	mg/kg	4.0 未満	下水試験方法に準ず(カスクロマトグラフ法)
ひ素	mg/kg	2.4	底質調査方法(平成24年8月)Ⅱ5.9.2
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	mg/kg	0.04 未満	底質調査方法(平成24年8月)Ⅱ6.4.1
銅	mg/kg	140	底質調査方法(平成24年8月)Ⅱ5.3.1
亜鉛	mg/kg	400	肥料等試験法(2023) 4.9.1. a
全クロム	mg/kg	22	底質調査方法(平成24年8月)Ⅱ5.12.2.2
アルミニウム	mg/kg	3600	肥料分析法に準ず(ICP発光分析法)
全窒素	%	6.5	肥料等試験法(2023) 4.1.1. a
全リン	%	1.6	肥料分析法(バナドモリブデン酸アンモニウム法)
全カリウム	%	0.19	肥料等試験法(2023) 4.3.1. a
油分	%	2.0	JIS K 0102-1 22.3に準ずる
鉍物油	%	0.1 未満	JIS K 0102-1 22.3及び附属書Dに準ずる

備考:

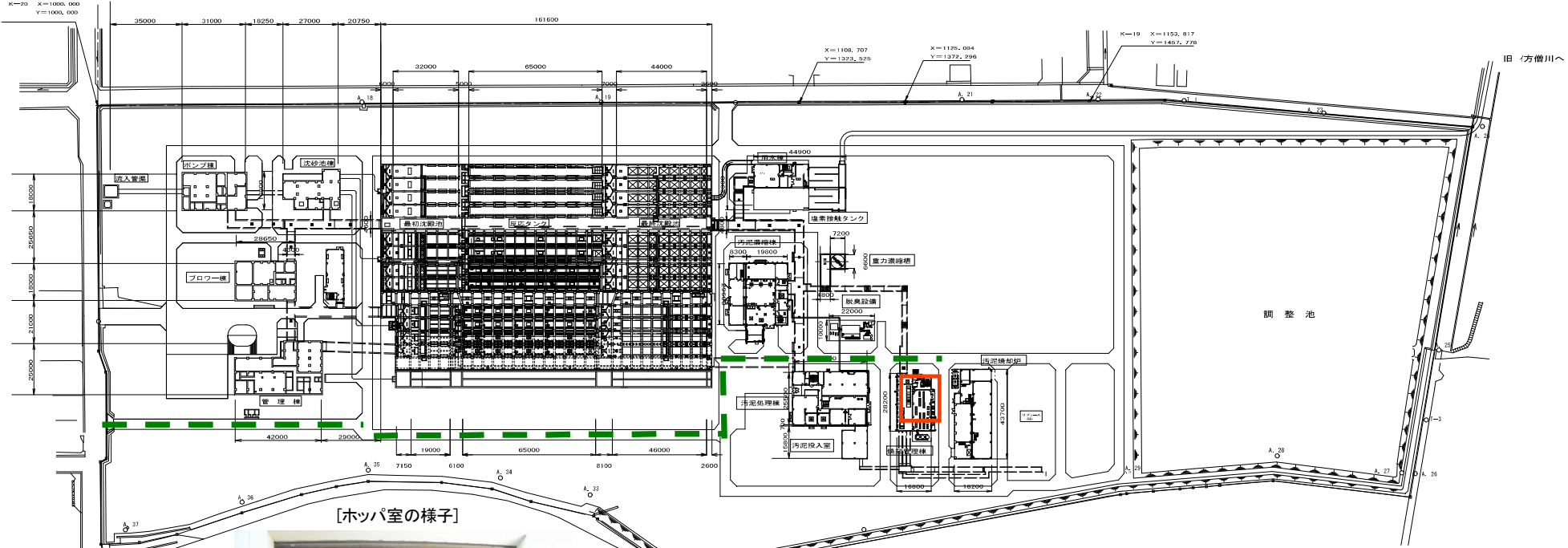
※分析結果欄に未満と表示されている数値は定量下限値を示します。
当社の許可なく、本分析結果報告書の一部を複製し使用することを禁止します。

様

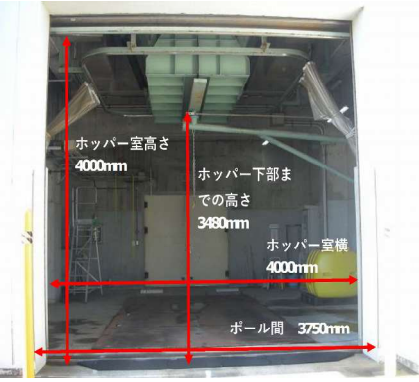
[illegible]

当社の許可なく、本分析結果報告書の一部を複製し使用することを禁止します。

磐南浄化センター全体配置図 S=1/1000



〔ホッパ室の様子〕



業務箇所
搬入経路

業務名	令和8年度磐南浄化センター 汚泥収集運搬処分業務(1t当り)単価契約(その1)		
図名	場内配置図		
業務箇所	磐田市小中瀬地内	図面番号	1/1